2024 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2025 年 5 月 31 日

ふりがな	つくばだいがく			
大学 研究機関名	筑波大学			
代表者名	役職名	人間系　准教授	氏名	佐々木　銀河
連絡先	住所	〒305-8572　茨城県つくば市天王台 1-1-1		
	TEL	029-853-6716		
	E-mail	sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp		
	URL	https://successability-lab.com/		
助成額	1,400,000 円			
研究要旨	知的障害特別支援学校高等部卒業後の進路は限られており、進学を選択できる生徒は極めて少ない現状がある。高等部卒業後の学びの場である特別支援学校専攻科、障害福祉サービスの枠組みを活用した「福祉事業型専攻科」、大学等で開催される知的障害者向けの公開講座（オープンカレッジ）は数が少なく、知的障害特別支援学校に在籍している生徒やその保護者、特別支援学校教員に周知されているとは考えにくい。そのため進学に対する潜在的なニーズが存在する可能性が考えられる。一方、海外では知的障害者の高等教育が進んでいる。自己実現に向けた学びの時間は、障害の有無に関わらず誰にでも必要であるとともに確保されるものであり、日本においても実現に向けた研究が必要であると考える。			
研究の目的	本研究の目的は、現在ある国内外の学びの場のプログラムの構成要素の比較調査を行うとともに、その調査結果から保護者や生徒本人、特別支援学校教員のニーズを明らかにすることである。そして、海外のようなインクルーシブな環境で行われる知的障害者の高等教育が、日本において実現可能であるかを探り、知的障害特別支援学校卒業後の「新たな学びの場」に関する実態とニーズを明らかにすることである。			
研究の 実施方法	・研究１　米国における青年期知的障害者の高等教育機関の移行支援プログラムの調査 調査方法：資料調査 内容　　：米国における知的障害者の高等教育移行支援プログラムの研究と実践を行っている主要機関 Think College の web サイトで公開されている TPSID 2020-2025 プロジェクト年次報告書（2022-2023）から入学条件、費用、住居、課外活動などの主な構成要素について調査を行った。 ・研究２　日本における特別支援学校高等部卒業後の知的障害者の「学びの場」に関する調査 調査方法：インタビュー調査・訪問調査 内容　　：知的障害特別支援学校専攻科、福祉事業型専攻科、公開講座（オープンカレッジ）等を実施している大学に半構造化面接を行った。また、訪問調査を行い、実態を把握した。 ・研究３　知的障害特別支援学校卒業後の「新たな学びの場」の形成に関するステークホルダーへのニーズ調査 調査方法：質問紙調査 内容　　：全国の知的障害特別支援学校に通う児童生徒の保護者と生徒本人、知的障害特別支援学校の教員、国内大学の障害学生支援部署に勤務する職員に対し、研究１と研究２のデータを踏まえて作成した４つの移行支援プログラムのモデルを示し、それぞれのプログラムに対するニーズを調査した。			

研究の成果	研究Ⅰ：TPSID に参加している学生の 95%以上が複数のインクルーシブコース（既存の大学の講義を受ける）を受講し、約 97%が雇用やキャリア開発活動に参加していた。また、プログラム修了後のアンケートにより就労率が高いことや、現在の生活に満足していることが示唆された。 研究２：学校専攻科と福祉事業型専攻科には共通点が見られ、研究ゼミや仲間との対話を重視した活動を取り入れる団体が多かった。オープンカレッジでは、大学教員や地域の専門家が講師となり、多彩な講座を大学生とともに学ぶ取り組みが実践されていた。 研究３：保護者の約 70%、教員の約 50%が日本の学びの場について認識していなかった。また、ニーズに関しては、全てのプログラムについて保護者、教員とも半数以上が知的障害のある子ども（生徒）によい学びの場となると肯定的な回答を選択していた。大学職員への調査では、TPSID、オープンカレッジともに社会的意義や大学、知的障害者に有益といった肯定的な回答が多い反面、予算等の資源や他の教員からの賛同が得られるかが課題になると捉えていることが示唆された。
研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	2025 年 3 月 13 日に一般公開 WEB イベント「知的障害と大学―ともに学べる場を求めてー」を開催し、日本における学びの場の取り組みの紹介に加えて、知的障害のある生徒や保護者、特別支援学校教員は、これらの学びの場をどう感じているか、また、日本の大学で学びの場がどの程度実現可能かについて調査した結果を報告した。また、話題提供を踏まえ、知的障害のある成人の学びの場に関する課題や展望、大学等の教育機関における知的障害のある人のインクルージョンなどについて、参加者も交えて議論を行った。このイベントは、当日参加申込者数 394 名（うち、参加者 186 名）、見逃し配信申込者数 558 名（視聴回数 1436 回）と多くの方の関心を得た。今後は研究結果の学会発表ならびに学術雑誌論文の投稿を予定している。

＊2025 年 5 月 31 日締切です。必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください。